

秋の彼岸会のお知らせ

日時 九月二十三日（木） 祝日

午後一時 彼岸会法要

水塔婆回向

午後二時 お説教

説教師

下津林 長福寺住職

岡本光正師

場所 常林院本堂

皆様お誘い合わせの上、ご参詣下さい。

雑記抄 くみんな一緒に里帰りく

お盆中、棚経でお檀家さんの家にお参りに行くと、たくさんのご親族さんが帰省されておられ、読経の間、みんな一緒に仏壇に手を合わせてお参りされます。

「孫はこんなに大きくなりましたよ。」

「これからも見守っていて下さいね。」

心の中で、いろいろなことを思いながらお参りされていたことでしょう。

そして、ご親族さんと同じように、ご先祖さまもお浄土から自分の家へ帰省されておられます。

「みんな元気そうで良かった。」

「ああ、孫たちも大きくなったなあ。」

ご先祖さまも、仏壇に向かって手を合わせているお子さんやお孫さんを見て、いろいろなことを思われたことでしょう。

お盆は、この世にいる私たちと、お浄土におられるご先祖さまが、一緒に里帰りをする期間です。

来年もご先祖さまに良い報告ができるように過ごしたいものです。

平成二十二年九月一日発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院

月影



第 34 号



さい かわわら さいのかわら じぞうわさん
西院の河原 (賽ノ河原) 地藏和讃

これはこの世のことならず。死出の山路の裾野なる。

さい かわはら ものがた き
西院の河原の物語り。聞くにつけても憐れなり。

ふた み よ ひとつ とう た みどりご
二つや三つや四つ五つ。十にも足らぬ赤子が。

さい かわら あつ ちちこ ははこ こ
西院の河原に集まりて、父戀ひし母戀ひし。戀ひし

こ な こえ よ こえ
戀ひしと泣く声は、この世の声とはことかわり。悲

ほねみ みどりご しょさ
しき骨味をとおすなり。かの赤子の所作として。

かわはら いし と あつ えこう とう
河原の石を採り集め。これにて回向の塔をくむ。

いちじゅう ちち ため にじゅう はは ため
一重くんでは父の為。二重くんでは母の為。

さんじゅう ふるさと きょうだいわがみ えこう ひる
三重くんでは故郷の。兄弟我身と回向して。昼

ひと あそ ひ いらあひ ころろ じごく おに
は独りで遊べども。日も入相のその頃は。地獄の鬼

あらわ なんじ なに
が現れて、やれ汝らは何をする。

しゃば のこ ちはは ついせんさせん つと
娑婆に残りし父母は。追善作善の勤めなく。ただ

あけく なげ かな ふびん おや なげ
明暮れの嘆きには。おごや悲しや不愍やと。親の嘆

なんじ 苦げん う たね われ うら
きは汝らが。苦患を受くる種子となる。我を恨む

ることなかれと。黒銅の棒をさしのべて。積みたる

とう お のうけ じぞうそん い
塔を押しくずす。そのとき能化の地藏尊。ゆるぎ出

たま なんじ いのちみじか めいど たび きた
でさせ給ひつつ。汝ら命短くて。冥土の旅に来

るなり。娑婆と冥土は程遠し。我を冥土の父母と。

おも あけくれたの おさな みころも
思うて明暮頼めよと。幼きものを御衣の。もす

うち い あわれ たま
その中にかき入れて。憐み給うぞありがたき。未

あゆ しゃくじょう え
だ歩まぬみどり子を。錫杖の柄にとりつかせ。

にんにくじひ いた あわ
忍辱慈悲のみはだへに。抱きかかえなでさすり。憐

たま
れみ給うぞありがたき。

子どもの守り仏

和讃(わさん)というのは、七五調の文からなり、

寺院での法要とは別に地蔵講や観音講などの講の集まりでとなえられることが多いです。

この和讃は名前の通り、地蔵菩薩のことをうたった和讃で地蔵盆の時によく読まれます。

幼くして亡くなった子どもたちが、西院の河原(賽の河原)で河原の石を集め、この世に残してきた父の為、母の為に石の塔をくんでいると、地獄から鬼が現れて、「親より先に亡くなるとは……、親が嘆いているぞ。」と言って塔をくずしてしまいます。そこへお地蔵さまが現れて、鬼たちから子どもを守る、という内容が記されています。

お地蔵さまは、子を亡くした親の代わりに、冥土での親として、子どもたちを見守り続けておられます。お地蔵さまは子どもたちの守り仏なのです。

和讃にもたくさん和讃がありますが、この西院の河原地蔵和讃ほど、唱えるものの心に、切なく悲しい響きを伝える和讃は少ないのではないのでしょうか。



お地蔵さま

あれこれ仏教用語

地蔵盆 (じぞうぼん)

地蔵菩薩の信仰と盆の行事とが、いつの時代か一緒にになって行われるようになったものです。

その起源は不明ですが、平安時代の京都ではすでに地蔵講があり、旧暦七月二十四日に地蔵盆が行われていました。今は八月二十三日、二十四日に行いますが、地方によっては今も旧暦に行うところもあります。

地蔵菩薩は、六道(地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天)を迷っている人々を救い導いて下さる菩薩さまです。そのお地蔵さまを囲んで行われる地蔵盆は、ご先祖さまの供養の意味があったり、子どもの参加が多いところから、「子どものお盆」と言われています。

ホームページ開設

当寺のホームページを開設致しました。

アドレス

<http://www.jo-ri-in-in.jp/>

または、「常林院」で検索して下さい。

お経の話く何が書いてあるの？

じょうどしゅうせいざんごんぎょうしき

浄土宗西山勤行式(赤本) 解説

三尊礼(さんぞんらい) ② 観音礼

かんのんらい

なむししんきみようらいさいほうあみだー

南無至心帰命礼西方阿弥陀佛

かんのんぼさつだいじひ いとくぼだいしゃふしよう

観音菩薩大慈悲 已得菩提捨不證

いっさいごどうないしんちゅう ろくじかんざつさんりんのう

一切五道内身中 六時観察三輪應

おうげんしんこうしこんじき そうごういぎてんむごく

應現身光紫金色 相好威儀轉無極

ごうじよひやくおくこうおうしゅ ふしよううえんきほんごく

恒舒百億光王手 普攝有縁帰本国

願共

五道・地獄・餓鬼・畜生・人間・天上の五つ

の世界

三輪・無常・不浄・苦

訳) 西方かなたにあるという極楽浄土にいらっしや

います阿弥陀さまを深く信仰し礼拝いたします。

左(向かって右)の脇侍である観音菩薩は阿弥陀

陀さまの大慈悲を示し、すでに悟りを得ている

のに仏とはならず、地獄・餓鬼・畜生・人間・

天上の五つの世界全てを身の内に収め、一日中

観察し、流転輪廻のもとである無常・不浄・苦

の三輪に応じて、いろいろな姿で現れるその身

は紫がかった金色の光を放っています。その威

厳ある姿は最上極まりないものです。

つねに百億の光を放っている阿弥陀さまの救い

の手をさしのべて広く縁のある人々を救いとり、

浄土へ連れ帰って下さいます。

すべての迷いの世界にある人々と共に願いまし

よう。阿弥陀さまの安楽な国に生まれることを。

観音さまは、救いを求めている人はいないか一日

中観察しておられる菩薩さまです。

そして、救いを求める姿を見つけると、その人の
救いの声が観音さまの耳に届く前に、すぐさまその
人を救いに行かれます。そうやって、いつも私たち
を見守って下さっているのです。

